中野区議会議員 無所属

近藤(こんどう) さえ子の小枝(こえだ)通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政

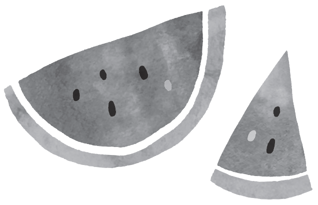
No.34 2019年8月発行

皆様のご支援を受けて中野区議会議員5期目をスタートしました。

今期、近藤さえ子は区民委員会と地域包括ケア推進調査特別委員会に属しました。

今期の区議会の構成は、自民党９（▲４）、立憲民主党・無所属９（＋４）、公明党８（▲１）、共産党６（▲１）、育児支援と防災緑地と平らな歩道の中野を創る会２、都民ファーストの会中野２、無所属６となりました。［（　）内は前議会との比較］立憲民主党・無所属会派は、自民党と並び第一党になりましたが、議長は自民党、副議長は公明党です。

議会は会派主導で進められていきますので、無所属には委員長等の役割は割り当てられません。委員会で、議案など採決をする場面では、委員長から「自民党さん」「共産党さん」と会派名で呼ばれます。個人の名前で呼ばれるのは、無所属の議員だけです。



今期も私は、住民に一番身近な自治体の議員として、どこの政党にも属さない無所属の立場で、区民の声を議会に届けて参りたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

暑さ厳しき折、皆様どうぞご自愛ください。

いま中野区は！

■ 区役所の組織改正

区長が替わり新体制の元、今年度から区役所の組織が改正されました。これまで4室6部であった組織を９部に再編、「分野等」と呼んでいた組織名を「課・係等」と変更しました。他の自治体では普通「課長」となる役職を、中野区ではこれまで「副参事」と呼んでいました。これで普通の役職名に変わりました。

■ 平和の森公園再整備計画その後

今年３月酒井区長は、第３９号議案「平和の森公園の再整備工事請負契約に係る契約金額の変更について」を区議会に提出しました。これは、区長の公約である「平和の森公園の草地広場を守り、300mトラック（公式競技には使えない）、100mコースは作らない」とした公園整備を進める契約でした。しかし、3月の議会の多数決で1票差で否決されてしましました。

その後4月に区議会議員選挙が行われた結果、各党派の議員数が変わり、6月の議会で再び草地広場を守る契約が提出されれば区長の公約が通る可能性は考えられたのですが、区長は、3月の決定を議会の最終決定として、自身の公約を断念することを選びました。その理由は、「これ以上遅延すれば事業者から損害賠償を求められる可能性がある」「中野体育館は、オリンピック・パラリンピックの卓球の公式練習場にもなっているので工事が間に合わず、そうなると予定している都の補助金が交付されない可能性がある」等です。

「工事契約に反対しても、トラック等を作らないことにはならない」と職員から言われましたが、この場でしか私の考えを発言する機会は得られないと思い、私は7月１１日の本会議で、前区長案が最終決定となる契約の議案について反対討論をしました。

傍聴席から拍手が起こり、素晴らしい反対討論であったと何人もの方に言っていただきましたが、酒井区長を選んだ区民の思いに答えることができずに大変残念です。

以下に私の反対討論の抜粋を掲載します。

近藤さえ子の反対討論（抜粋）

私は、多くの区民の合意がないまま進む契約であることに対し反対と考えます。

◆ 反対理由その1　本当に区民が必要とするものなのか。

昨年の区長選挙、今回の区議会議員選挙を通じ、私は多くの区民に聞いてみましたが、「平和の森公園に300mトラック・100mコース・バーベキューサイト等を作って欲しい」と言う声は皆無でした。むしろ「必要ない」との声のほうが圧倒的でした。

これは、区長が区長選で掲げた草地広場を守る公約を今も支持している区民が多数であることを示します。区民合意が取れないまま施設を作って行くことに大きな不安を感じています。

◆ 反対理由その2　区民に対し公約を覆した説明がない。

区長は「これ以上の遅延は負荷が高すぎる」と理由を述べられました。そのことは理解できます。しかし、区長が公約にまで掲げたこの「平和の森整備計画」です。今議会に、300mトラック・100mコース等を作らない契約を再度示すべきであったと思います。3月の議案否決からの3か月間、どのように区長は取り組んできたのでしょうか。どのような検討をし、その結果今回選んだ道しかなかったとの説明は区民には一切されていません。区民が理解できるように経過を説明する責任があると思います。

◆ 反対理由その３　私たちは何を望み何を残すのか。

「平和の森公園」は、戦時中、主に政治犯・思想犯が入れられていた中野刑務所跡地です。区の一等地に、人間にとり最も自由のない場所の象徴である刑務所を国から押し付けられていた区民は、30年に渡る住民運動の末、平和と自由と緑を尊重する公園を作り「平和の森」と名付けたのです。

この公園は、戦中・戦後の苦しい時代からの脱却、戦争のない未来への希望の公園であったはずです。昭和の時代の先人たちは個々の生活が、平和と自由と環境によって守られることを後世に残すことを選択したのです。

私たちは令和の時代にどのような場所を残したいと考えますか。そこは、子どもから高齢者まで区民誰もが、自由に安心して過ごせ、心が癒されるような空間であって欲しいと私は思います。ご賛同のほどお願いいたします。

私の議会報告

近藤さえ子は第1回および2回定例会で以下の質問をしました。

2019(平成31)年 第1回定例会

一般質問(2月20日)

地域包括ケアシステムの構築について

区は、「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」を策定した。そのステップ1（平成28～30年度）として、不足する資源等（人材）の抽出と積極的な地域資源(人材)の開発により、高齢者が可能な限り住み続けられる地域づくりに向けた基盤を整備することになっているが、どのような成果を得たのか。

また今年度は、交通弱者の区内円滑移動のため、総合的な検討・実証が行われることになっている。現在どのように進み、それは実際に高齢者が便利に使える移動手段なのか。

超高齢社会を迎え、また女性の社会進出が進む中で、介護保険の範囲だけでは補えない部分のサービスをどのように支えるのかの真剣な議論なしには、高齢者が住み慣れた地域で尊厳を持って暮らしていく理想は成り行かず、各自治体による細かいサポート体制が必要である。

区長 地域資源については、アウトリーチチームによる情報収集等に基づき、国の介護サービス情報システムを活用したデータベース化を図っている。

予算特別委員会 総括質疑(2月26日)

区民とともに進めるまちづくりについて

近藤 地域の全ての分野がアウトリーチチームの担当では業務量が膨大。さらに短期で人事異動がある体制では、区民との協働が進まない。

伊藤地域支えあい推進室副参事（地域活動推進担当）
地域団体の立ち上げや支援等の取り組みが徐々に広がってきている。

校割り予算について

近藤 来年度の校割り予算は、一人当たりどのくらい増額するのか。

高橋子ども教育部、教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当）
小学校16,380円→17,212円、中学校28,122円→29,668円

近藤 校長先生から校割予算は使い勝手が悪いという声を聞く。学校の目線で、さらなる検証・改善を進めて欲しい。

子どもの生活実態調査について

近藤 子ども・子育て施策の充実に向けての調査に、2千9百万円余を予算化し、アンケート調査を行う。普段届きにくい子どもたちの声を拾えるよう設問の工夫が必要である。

高橋子ども教育部、教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当）
調査の設問設定について精査していく。

2019(令和1)年 第2回定例会

一般質問(7月1日)

（1）犯罪被害者等基本条例の制定について

社会では被害者支援のために多くの人がボランティアで活動しているが、普遍的に被害者の立ち直りを支援していくことは難しく、これは正に犯罪被害者等基本法が示す自治体の責務である。

現在東京都では、今年度中の犯罪被害者等基本条例制定を目指して取り組んでいる。都はこれまでも、中野区や多摩市等の被害者支援先進自治体の職員を講師として招き、都の被害者支援を進める取り組みを行ってきた。

しかし、その先進自治体である中野区には、未だに基本条例がない。区も、都の条例制定に合わせて、スピード感を持って条例の制定を進めるべきと考える。

区長 今後、条例の考え方や新たな支援策について示したい。

（2）8050問題、ひきこもりの支援について

80代の親がひきこもりの50代の子を支える「8050問題」が深刻化している。中野区には、ひきこもりを抱える家族を孤立させないためにどのような体制があるのか。

今年度から地域包括ケアシステムの体制は、高齢者だけでなく、全ての支援が必要な区民への対応となった。ひきこもり問題は、まさにアウトリーチの支援が必要であると思われる。難しいひきこもり対策等に取り組めるエキスパート職員・専門職の育成が必要である。

区長 地域での継続した見守り支えあいが重要であり、各部署が専門性を活かし、すこやか福祉センター・アウトリーチチーム等も連携して包括的な支援に繋げることが重要。

小枝(こえだ)日記 ブログ http://saekonikki.exblog.jp/ 日々の活動をお知らせしています。

5月18日・19日　お別れ

近所で親しくしていただいた90歳の方が亡くなられ、お通夜と告別式に参列しました。姉の同級生のお母様で、姉たちが小学校に行っている間も、私は一人で毎日のように「遊びましょ」と言ってお宅にお邪魔していました。

和裁で生計を立てられ、訪ねてくるどなたともおしゃべりを楽しみ、お宅は80代90代女性のサロンのようでした。皆さんでおやつやおかずなどを持ち寄り、助け合う体制を作り・・そこには、現在では作ることの出来ない、昭和時代のご近所関係がありました。

「子どもに迷惑はかけたくない」と介護も要らず、終い支度まできちんと済ませ、告別式では、ご自身が書いたお別れの言葉が読み上げられました。私は泣きながらも、その見事な生き様に心の中で拍手していました。

彼女は長年にわたり父と私の「選挙たすき」を縫ってくれました。今回の選挙の直前「さえちゃん、今回は、たすきを縫ってあげられないからね」と言われたのが最後の会話でした。長い間本当にありがとうございました。合掌

7月7日　中野区区民公益活動推進基金の助成制度 公開プレゼンテーション傍聴

中野区区民公益活動推進基金の助成制度とは、公益活動を行う区民団体が、独自の特長を生かした事業を区の受託事務として行うことを提案し、その提案を受けた区が、ふさわしいと思われる業務を提案団体に委託する制度です。

今日の審査では、5団体がプレゼンテーションを行いました。今回は、私も活動している中野・コンポスト連絡会も応募しました。

また数日前「ボランティア活動をしたいけれど、どのようなものがあるか分からない」と話していた方を、この審査の傍聴にお連れしました。

小枝(こえだ)ネット（ホームページ）　http://www.koeda-net.com/

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二（中野区議11期）の次女　北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒　中野区議会議員(5期)　趣味:テニス

近藤 さえ子の小枝(こえだ)通信

発行:中野市民の会　編集:近藤さえ子事務所

TEL＆FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com